


平成30年度地域づくり人材養成講座 第1回講座開催概要

日 時	平成30年12月3日(月) 13:30~15:30
場 所	御嵩町西田自治会集会所
講 師	滋賀大学社会連携研究センター教授 横山 幸司 先生
受 講 者	20名
主 催 者	岐阜県環境生活部県民生活課 御嵩町民生部住民環境課
内 容	<p>◆開講式</p> <ol style="list-style-type: none"> 挨拶(御嵩町住民環境課長) 講座の趣旨説明(県担当者) <p>◆第1回講座</p> <p><講演> 演題:「住民主体の地域づくりとは」 講師:滋賀大学社会連携研究センター教授 横山 幸司 先生</p> <p>なぜ住民主体で地域づくりを行う必要があるのかを私たちを取り巻く環境の変化を踏まえながら説明いただくと共に、どう取り組むとよいかをお話いただきました。</p>  <p>▲講師の横山先生</p> <p>○なぜ今、住民主体の地域づくりが必要なのか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口減少・超少子高齢化社会、国家的な財政難・地方財政の悪化、行政の肥大化を背景に問題が山積。 ・最大の課題は、戦後長らく続いてきた既存の組織・事業が制度疲労をおこし、地域の抱える諸課題に対応できていないこと。 ・解決するには、まずは公・民・協働の役割を見つめ直すことが必要。 <p>○住民主体の地域づくりは何を目指すのか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちの目指す姿は「総合計画」にある。住民の皆さんも一度見てみるとよい。 ・地域が取り組むべき領域は、①行政だけでは手が行き届かない領域、②他団体も行っているが、住民や協働により行った方が効果的・効率的な領域、③多くの団体が重複して行っている活動を結集して行うべき領域の3つである。やみくもに行うのではなく、効果・効率を考え実施すべきである。 ・住民活動(事業)を始める際に必要な要素は、①マーケット(需要があるか)、②ターゲット(誰のためにやるのか)、③ポジション(どんな役割を担うか)、④パーパス(何のためにやるのか)、⑤リテラシー(自分たちに何ができるのか)の5つである。 <p>○間違いだらけのコミュニティ支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政においても混同している場合があり、支援がうまくいっていない例が少なくない。 ・コミュニティには「地縁型」と「テーマ型」の2つがあるが、「テーマ型」への支援だけが行われている場合がある。 ・財政支援だけでは、団体の継続につながりにくい。また地域担当職員制度についても主旨が形骸化し、うまくいっていない自治体が多い。 ・中間支援組織がうまく機能していない。コミュニティに厳しいことを言えない組織が多い。

○地域づくりの手順

①地域診断

地域カルテを作るなどコミュニティの実態の把握や適切な運営がなされているか確認をする。

②事業や組織のスクラップ&ビルド

地域にとって本当に必要なのかを検討し、事業や組織の統廃合を行う。それには、住民アンケートを行うのが効果的。

③持続可能な体制整備と事業化

地域づくりはボランティアで取り組んでいることも多いが、限界がある。どうすれば持続できるかを検討する必要がある。

④適切なモニタリングの実施

中間支援組織等第三者の専門家の介入が必要。

○事例紹介

「未来づくりキャンパス地域資源活用塾(滋賀県近江八幡市)」

- 地域で事業を実践していくための人材の育成を実施。
- 自分たちで見つけた地域の課題を事業化するもの。メンターがつき事業化を支援している。
- 今年で3年目を迎え、これまでに16チームが自分たちでテーマを決め、取り組んでいる。